

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	17055	地域人材キラリ育成事業	課名	生涯学習課 社会教育G
	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実	財務	会計 01:一般会計
	基本施策	05:学びによる生きがいの創出	科	款 10:教育費
	施策の方向	01:地域へ生かせる学びの展開	目	項 05:社会教育費
戦略プロジェクト	04:「ジモトノココロ」プロジェクト	目	目 03:公民館費	
事業予定期間	H 29 ~ R - 年度		主な根拠法令要綱等	

目的・概要	対象	市民
	目的	地域での学びを深めて、地域で活躍できる人材を確保していくため、市民大学(仮称)講座・行政講座・中央公民館講座をフィールドに、人材育成のための学びを一体的に推進する。
概要	生涯学習計画に基づき、市民大学(仮称)講座や中央公民館講座を実施する。市民大学(仮称)については、地域人材キラリ育成事業推進委員会の中で「カリキュラムの編成」、「事業方針の決定」、「事業の検証」を行っていく。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	中央公民館活動推進事業 ・中央講座の開催 ・出前講座の開催 (地元の魅力・課題・歴史講座等含む) 市民大学(仮称)展開事業 ・市民大学(仮称)講座の開催 ・推進委員会の開催	中央公民館活動推進事業 ・中央講座の開催 ・出前講座の開催 (地元の魅力・課題・歴史講座等含む) 市民大学(仮称)展開事業 ・市民大学(仮称)講座の開催 ・推進委員会の開催(検証等)	中央公民館活動推進事業 ・中央講座の開催 ・出前講座の開催 (地元の魅力・課題・歴史講座等含む) 市民大学(仮称)展開事業 ・市民大学(仮称)講座の開催 ・推進委員会の開催(検証等)	
	年度実績	中央公民館活動推進事業 ・中央講座の開催 86回 ・出前講座の開催(地元の魅力・課題・歴史講座等も含め実施) 317回 かめやま人キャンパス展開事業 ・かめやま人キャンパス講座の開催 ・亀山市地域人材キラリ育成事業推進委員会の開催			
事業の計画・実績	計画額	事業費	15,200千円	16,200千円	16,500千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	820千円	820千円	820千円
	予算額	事業費	15,000千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	200千円		
	決算額	事業費	14,318千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	200千円		
人件費	一般財源	14,118千円	0千円	0千円	
	総人件費	2,355千円	0千円	0千円	
	一般職員	2,355千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.30			
		会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円
総コスト(+)		16,673千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	高等教育機関と連携した講座数	計画値	1	1	2
		市民大学(仮称)の中で、高等教育機関(大学や高校など)と連携した講座数	実績値	11		
			単位	講座	講座	講座
	名称	市民大学(仮称)のカリキュラムの継続実施	計画値	実施	実施	実施
		市民大学(仮称)の体制が確立されてからカリキュラムの内容が継続的に実施されているか	実績値	実施		
			単位			
名称	市民大学(仮称)や中央公民館の講座を受けて結成された団体数	計画値			3	
	市民大学(仮称)講座や中央公民館講座を受講し、講座を契機に結成された団体数	実績値				
		単位			団体	

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 学びの情報の一元化に向けて、生涯学習計画に示しためざす姿と各部局の進めている様々な学びに対しての共有を図りながら、学びの情報を収集する必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 令和元年度に実施した4つの講座と関連の深い、環境創造Gや地域まちづくりGと協議し、各部局の進めている学びに関連するカリキュラム策定を進めた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 中央公民館活動推進事業の実施により、多くの市民への「学習機会」を提供することができた。また、かめやま人キャンパスではまちのくらし人、まちの歴史人、まちの起業人、森と水の守り人の4種類の講座を開催し、受講者が地域の中で活躍できるような実践的な学びを展開することができた。 【講座数】くらし人…6回 歴史人…6回 起業人…8回+実践活動 守り人…6回	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 これまで行政講座にあまり参加していなかった、若い層の受講者に参加いただくことができた。まちの起業人養成講座においては、受講者の実践活動として、かめやま人キャンパスマルシェを実施することができ、それぞれの実践活動に向けた経験の場を創出することができた。かめやま人キャンパスを実施する中で、市域における新たな人材の掘り起こしができ、講座で様々なノウハウを得ることで、将来的に地域で活躍できる人材育成につながった。 【受講者数(延べ)】くらし人…53人 歴史人…72人 起業人…112人 守り人…63人 合計300人	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 かめやま人キャンパス講座受講者の修了後の実践活動を見据えたカリキュラム編成が課題である。そのためには、行政関連部署や市内で活動している団体との連携強化が必要である。	今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 2年目のかめやま人キャンパス講座の実施にあたり、より効率的・効果的に受講者の実践活動や講座の垣根を超えた仲間づくりを推進するため、2コース合同講座や行政講座との連携講座、実際に市内で活動されている方の元へ赴くフィールドワーク等を実施していく。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 異なる講座の受講者同士がつながりを持つことで、かめやま人キャンパス修了後の実践活動における協力関係を育むことができる。また、フィールドワークを行うことで、地域で活躍できる人材育成につながる。	
	対応時期	令和2年度	

【1次評価者】	教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育グループリーダー 小坂 博文
【最終評価者】	教育委員会事務局 生涯学習課長 桜井 伸仁

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	A	A		
	成果	B	B	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		15,000 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	15,000 千円
	令和2年度への繰越額	千円